

第2回 RINK 釧路まちづくり交通戦略会議 意見要旨

■日 時：2020年（令和2年）7月9日（木）15時から17時まで

■場 所：釧路市観光国際交流センター 3階 研修室

■出席者：末ページの構成名簿のとおり

■議 題

（1）基調講演（法政大学 高見教授）

（2）都心部地区交通戦略の基本理念・基本方針について

（3）都心部地区交通戦略の主要な取組の方向性・イメージの共有について

【議題2】 都心部地区交通戦略の基本理念・基本方針について

（釧路商工会議所 杉村委員）

○都心部のターゲットを誰にするのか、都心部の使い手は子ども達なのか、大人なのか老人なのか、慎重に検討する必要がある。

○釧路は車利用が多い地域なので、皆さんが都心部に集まって来て、マイカー、バス、タクシー、鉄道の大きな結節点になって、賑わいが生まれてくるというコンセプトがあると考えている。

（法政大学 高見委員）

○この戦略の狙いは、都心部に交通手段を限定せずに、誰でも来られるようにすることだと考えている。しかしながら、これまでの生活習慣により、高齢者は車を手放さない可能性があるので、若い世代に期待している。

○バスは、人口規模からみて利用者が多いとのことだが、やはり大人の一般的な交通機関と言えば圧倒的に車であり、それがたちどころに公共交通を使う生活になるというのはまさに妄想である。

○この戦略の策定により、これまでの習慣を徐々に変えていく、可能なものは変えていくということだと考えている。

（高野進行役）

○富山市は、コンパクトシティやLRTを活用したまちづくりで有名であるが、駅前に、商業施設と駐車場ビルの間に屋根をかけて様々なイベントができる広場がある。LRTを整備している一方で、駐車場も整備していて、車で来る人はそこに駐車するようになっている。

○地方都市は、首都圏のような鉄道網が張り巡らされているわけではないので、まずは車をベースに考えていかなければならない。そこに加えて、バスを含めた移動を考えていく視点が重要である。

（JR北海道（株）釧路支社 小久保委員）

○色々なイベント等があったとしてもそれは年に何回かしかないものであって、日常的に利用できる商業施設の誘致を含めた土地利用を一体的に考えることが必要であると考えている。

○歩行者を増やすのであれば、そこに住んでいる人を増やすという考えが効率的ではないかと考えている。

(北海道警察釧路方面本部 松浦委員)

○車道の上に駐車スペースを恒常的に整備することは、駐車車両によって車道にあえて死角を多く作ることになり、基本的には賛成しない方向である。

○一方通行の道路で荷捌きスペースを整備する場合、右側駐車を誘発する道路形状は宜しくない。

○道路上への露店などの出店は、今般のコロナの関係で特例措置が取られており、今後の対応については、国の方針に依るところであるが、基本的に、ダンスやストリートライブ等の活動には道路使用の許可がいる。さらに、スケートボード、キックボード、道路上での球技については、道路使用の対象にならない禁止行為であることから、警察としては、道路使用を申請されても許可できない。

○解決策の案として、道路交通法に基づく道路上では禁止行為になることから、その場所が、道路の位置づけをすべきなのか、道路外として位置付けるのかという視点で考えた方が、まちづくりの自由度は高まると考えている。

(高野進行役)

○現状の道路空間では制約を受けるので、このことをどのように解決していくかというのが、この会議での検討課題だと認識している。

(法政大学 高見委員)

○歩道に一定の空間があれば、そこで色々な活動ができると考えている。今回のように、北大通の車道を縮小することは、歩道の幅が広がるという認識ではなく、道路か地先かわからない中間の空間みたいなものが、地先側に増えたという認識ではないかと考えている。道路外として位置付ける選択肢もあるが、その場合、地先が接道しなくなり、建築許可などとの調整が課題になる。○いずれにしても、道路として位置づけると、利用に限界があり、居場所としてあまり居心地も良くないのではないかと考えている。

(くしろ北大通商店街振興組合 佐藤委員)

○この戦略の目的は、賑いをどのように生み出すかだと考えているので、交通が便利になる、あるいは、人々の滞留が増えるということだけでなく、人々がまちに来て目的を達することが出来るような店舗があるということが重要と考えている。

○店舗が多くあれば、様々な年代の方に、様々なものを提供することができ、満足度に繋がり、賑わいが増すと考えている。

○一方で、都心部の商店街の課題は、店舗毎に駐車場を設けることが難しいということであり、高齢社会において、少し遠い駐車場に車を停めて買い物に来ていただくと、特に冬場は、非常に不便を掛けていると感じている。

○法律上、様々な問題はあるかもしれないが、コインパーキングなど色々な形態で、停車帯を活用して、店舗の前に駐車場があると便利である。

○高齢者、子ども、子育て中の方々も安心して買い物ができるような、停車帯の活用の可能性を考えていきたい。

(高野進行役)

○他都市では、時間を限って停車帯を店舗利用の駐車場に活用しているケースもある。道路の区間ごとに、どういう設計が一番良いかということを考えていくことが必要だと考えている。

○全ての停車帯に駐車場を設置しなければならないということではなく、来訪者のニーズを踏まえながら検討する必要がある。

【議題3】 都心部地区交通戦略の主要な取組の方向性・イメージの共有について

(釧路商工会議所 杉村委員)

○ウォークアブルな空間を形成するまちづくりのコンセプトについては了解しているが、北大通には、北大通にしか面していない土地もある。

○そのような土地を死地にしないためにも、ウォークアブルのコンセプトに反するかもしれないが、店舗前に駐車場を設け、北大通からの車の乗り入れを認めるべきと考えている。

(高野進行役)

○駐車場の整備は、店舗毎にというようなことではなくて、駐車場を集約化するなど、色々なパターンを考えなくてはいけないと考えている。

(法政大学 高見先生)

○例えば、札幌市の目抜き通りであれば、店舗前に駐車場を整備し、目抜き通りから歩道を横断し、店舗前の駐車場に車を駐車させたいという議論にはならないと考えている。

○釧路市程度の都市規模の目抜き通りの場合、店舗前の駐車場への車のアクセスをどう考えるかというのは大変難しい課題である。

○一般的には、歩道を横断して車を駐車することは無い方が良いと言われているが、一方で、そのことを許容するまちづくりもあると考えている。このことについては、引き続き検討していく必要があると考えている。

■RINK釧路まちづくり交通戦略会議 構成名簿

(敬称略)

	所属	役職	氏名	備考
1 (進行)	北海道大学 公共政策学連携研究部 兼 工学研究院北方圏環境政策工学部門	教授	高野 伸栄	釧路都心部まちづくり推進協議会 (準備会) 座長
2	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	教授	高見 公雄	釧路都心部まちづくり推進協議会 (準備会) 委員
3	北海道旅客鉄道 (株) 釧路支社	執行役員 釧路支社長	山田 浩司	代理出席: 企画・経理グループリーダー 小久保 利厚
4	くしろバス (株)	参事	畑毛 正文	
5	阿寒バス (株)	次長	須田 広伸	
6	釧根地区ハイヤー協会		鎌田 浩宣	
7	釧路商工会議所 地域開発委員会	委員長	杉村 荘平	
8	釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz	センター長	澄川 誠治	
9	釧路第一商店街振興組合		三島 基浩	欠席
10	くしろ北大通商店街振興組合	理事長	佐藤 公一郎	
11	釧路末広仲見世通商店会	会長	岡野 公夫	
12	釧路駅前商店会	会長	佐久間 貴史	代理出席: 岡部 源三
13	釧路駅西商店街振興組合	理事長	柿田 英樹	欠席
14	釧路市共栄大通商店街振興組合	理事長	小林 嘉明	
15	若松町商店街	会長	佐藤 利夫	欠席
16	釧路市商店街振興組合連合会	事務局長	小澤 謙次郎	
17	一般社団法人 釧根地区トラック協会	専務理事	野村 和人	欠席
18	一般社団法人 釧路観光コンベンション協会	専務理事	山田 達也	
19	北海道開発局釧路開発建設部道路計画課	課長	三浦 之裕	代理出席: 道路調査官 角間 恒
20	北海道釧路建設管理部道路課	課長	新田 和宏	
21	北海道運輸局釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	西崎 涉	
22	北海道警察釧路方面本部交通課	課長補佐	松浦 大史	
23	北海道釧路方面釧路警察署	交通第一課長	杉本 考一	
24	釧路市総合政策部都市経営課	課長	藤田 和弥	欠席
25	釧路市総合政策部都市経営課	政策推進主幹	池田 利伸	欠席
26	釧路市総合政策部都市計画課	課長	入江 義信	
27	釧路市産業振興部商業労政課	次長	熊谷 伸勝	
28	釧路市産業振興部観光振興室	室長	鈴木 稔	
29	釧路市都市整備部道路河川課	次長	高橋 一浩	
30	釧路市都市整備部公園緑地課	課長	田中 伸嗣	